

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	459010097
法人名	有限会社 大塚夕月
事業所名	グループホーム野の花
所在地	宮崎県宮崎市大塚台西3丁目23番地2 (電話)0985—47—2280

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(平成21年10月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年1月19日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.25人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 一部鉄骨		
	1	階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要(10月7日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	70歳	最高	84歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大塚生協クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

賑やかな住宅街の中に位置し、隣は保育園や公園、そして小中学校もほどなく近くにあり、ホームはたくさんの社会資源の中に囲まれている。地域の自治会の一員として、利用者や職員が地域の行事等へ参加しており、その存在感は特別なものではなく、地域に融合された自然な存在でもある。ホームで生活する利用者は、日課としているテレビ体操や散歩により健康を維持している。また食事や日常的な活動も、利用者と職員と一緒に、家族のような温かい会話や笑顔で毎日を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善シートを作成し、職員での協議や改善点についての取り組みの方針を立てているが、一つ一つの項目について、その進捗状況を確認することなく1年が経過している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と共に他の職員一人ひとりの意見や考え方も含まれており、全員で協議しながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の会議には、地域の代表者や家族代表者、地域包括支援センター職員の参加もある。会議では利用者の状況やホームの運営状況が報告されている。また前回の外部評価の結果も報告されている。委員からのさまざまな意見については、職員会議にて報告し、利用者支援やホームの運営のための参考としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者状況については、面会時や季節ごとに電話やハガキなどで報告するとともに、ホーム便りも同封して、利用者の生活状況がわかるようにしている。また家族からの苦情や意見については、職員間での協議や行政担当者への相談などを通じて、迅速に対応するようにしている。また苦情箱は玄関の外のポストを利用し、プライバシーが守られるように工夫している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは多くの住宅街に囲まれ、自治会にも加入して地域の中の一員として活動にも参加している。自治会長さん自らホームに足を運んだり、地域防災協会の連携も取れている。また老人会がホームのカラオケに足を運んだり、近隣の保育園や小中学校の子供会との交流も盛んである。利用者は日課にしている散歩の際にも、地域住民とのコミュニケーションを十分に取る機会を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はホーム開設時から、職員の意見を取り入れながら作成したもので、地域との連携を盛り込んだ内容であり、地域のために貢献したいという気持ちを込めた理念でもある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員がわかりやすく理解できるように箇条書きにされており、日々職員はその理念を意識しながらケアに当たっている。また日常的支援の中で、職員同士が理念を意識しあうことを忘れない取り組みがある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域の行事にも利用者と職員は積極的に参加している。また地域の高齢者クラブや保育園、小中学校の子どもたちとの交流があり、住民がホームに気軽に立ち寄り、和やかな交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者のみでなく、他の職員と一緒に取り組んでおり、職員は自己評価や外部評価の意義についても理解しあうことができている。昨年の外部評価の改善点は改善シートを作成しているが、計画的な改善に向けた取り組みがなされていない。	○	昨年の外部評価の改善点に向けた改善シートを作成しているので、項目に沿って改善目標を策定し、職員全体で目標に向かって見直していくための協議をしていく努力を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し、地域代表者や家族代表者、地域包括支援センターの職員の参加で、ホームの運営状況や利用者状況の報告がなされている。また外部評価の報告や改善に向けた計画も報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者や地域包括支援センターとの連絡調整は、管理者が行い、行政担当者から運営上の助言をもらうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、一般的な状況については管理者が、健康面については看護師が報告し、季節に応じて個別に手紙やはがき、ホーム便りを同封して、利用者の状況がわかるように報告の機会を設けている。また現金預かりの出納についても、定期的に家族に報告し、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が苦情や意見が出しやすいように、玄関の郵便ポストを利用して受付をしている。また苦情等があったときは、職員会議で協議したり、行政担当者の助言を得るなどして、迅速に対応している。家族とは日頃から十分なコミュニケーションに努めるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員の異動は少なく、職員が長く勤務できるような取り組みをしているため、利用者は馴染みの職員に継続的な支援を受けることができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は多くの職員が受けることができるようにしており、その報告書もある。研修会参加者は職員会議にて報告をしている。内部の研修会は毎月の職員会議の際に議題を決めて学習できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	比較的近くの同業者と連絡を取り合うなどして、ホームの運営や利用者支援の方法などについての相談などができるように、日頃からの付き合いを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族同伴にてホームに訪問することで、精神的に落ち着くための働きかけをおこなっている。また体験入居ができるための体制もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の教訓や慣習、料理の方法などを学ぶ機会を、毎日の生活支援から自然に得ることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の利用者支援の中で、個別の希望や意向に応えられる体制があり、職員の寄り添いケアが実践できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たって、職員全員が参加する月1回のカンファレンスの中で、利用者個別プランの進捗状況の確認や見直しのための協議を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの課題に応じて、利用者がホームの中ばかりでなく、地域の中でどのように生活していくべきかがプランの中にあり、そのプランは毎月のモニタリングで内容を評価し、定期では3か月毎にまた、状態変化があった場合には随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は職員が対応し、家族ニーズに応えられるようにしている。また家族や近隣住民の緊急的な宿泊ができる体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関との連携は主に看護職員がしており、常に利用者の健康状態についての報告をおこなうことで、利用者や家族が安心して生活できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針についての説明や、看取り等についての本人家族の同意を取っている。また終末期には、家族や医療機関との連携の中で、ホームで安心して終末を迎えるための準備もある。このことについては、全職員が日々の研修で研鑽し、ホームの方針についても共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規程を、面会者等にわかりやすく玄関に掲示してある。また職員は利用者に対して、尊敬・尊重した会話が自然に行われている。利用者の個人台帳等や日誌等も事務室に管理されており、利用者や面会者の目に付くことはない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは朝の体操や散歩など、毎日の日課としての習慣があるが、けっして強制するものでなく、利用者の自主性に任せている。また職員は利用者一人ひとりの生活ペースに合わせてながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、準備、後片付けができる利用者と職員が一緒になって作業し、食事はひとつのテーブルを利用者と職員が全員で囲んで、話に花を咲かせながら、家族的な雰囲気がいっぱいのお食事を楽しむことができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人が一日おきに入浴できるようにしている。入浴回数や時間など、ニーズに合わせて対応できる体制がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の日課としてテレビ体操や公園までの散歩を、利用者は楽しみごとのひとつとしている。また洗濯物たたみやモップかけ、テーブル拭きや食事の準備など、利用者が個別に楽しむことの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は雨の日以外に近くの公園までの数百メートルの距離を、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。また帰宅願望のある利用者にも日頃から外出支援するようにしている。そのほか季節的な外出や、買い物、外食などの支援もできている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは玄関や掃き出し窓などの鍵をすることはなく、常時オープンで、利用者が生活するための自由な空間作りをすることの意義を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回の自治会主催の地域防災訓練があるが、今年には参加していない。またホームでの防災・避難訓練も年3回実施している。しかし夜間想定訓練や、地域住民への呼びかけや訓練への参加はない。	○	自治会加入で地域とのつきあいは密接で地域住民とのふれあいも頻繁である。この関係を大切にして、災害など緊急時の訓練特に夜間など地域住民の協力が不可欠であり、今後は災害訓練に地域住民の参加への理解と呼びかけをしていただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は利用者の嗜好を確認しながら作成し、知り合いの栄養士の助言をもらうようにしている。また食事や水分の摂取状況は、個別にチェック表に記載して確認するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日当たりもよく、利用者がのんびり過ごすための空間があり、トイレや居室への導線も移動しやすいように配慮している。またトイレや浴室は必要に応じて手すりが設置してあり、安全に使用できるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ利用者の個性ある空間になっており、夫婦や姉妹で入居している方は、生活しやすいように配慮がある。またタンスや仏壇など馴染みのものを持ち込んである。居室はすべて空調が設置してあり、寒暖の調節ができるようにしてある。		